

公益社団法人 三国・芦原・金津青年会議所 2023 年度  
スローガン・基本理念・基本方針・運営方針

Ver.13

2023 年度理事長 金沢 慶浩

【スローガン】

どばじゅうが  
駑馬十駕

～未来は僕らの手の中～

注：MAK=Mikuni.Awara.Kanazu（三国・芦原・金津）

【基本理念】

●はじめに

三国・芦原・金津青年会議所（以下、MAK・JC）に入会して6年目を迎え、2020年から2022年にかけてのコロナ禍中、様々な役職を通して青年会議所活動の経験をさせていただきました。親身にさせて頂いている先輩の一声のみで、入会を決めたこともあり、青年会議所が何をしている団体なのかも理解せず、その影響から入会2年目までは積極的に会務に参加をしていませんでした。しかし、MAK・JCが50周年を迎えるにあたり、室長の任を受けた頃から私のJCに対しての意識が変わり始め、コロナ禍中でも、メンバーや他LOMの方々に助けて頂き、JCの素晴らしさを教えて頂きました。2021年度には専務に任命して頂き、他LOMの行動力、仲間意識の強さ、JC運動の取り組み方を学ばせて頂いたことでMAK地域の力になりたい、還元したいという感情が芽生えました。

MAK・JCは今年で53年目を迎えます。私の夢は、一年間通して全ての事業が成功に終えること、会員メンバーを成長させること、明るい豊かな社会（三国・芦原・金津地域 ※以下、MAK地域）を築くためにメンバー一丸となり、努力を惜しまず切磋琢磨して年度末を笑って迎えることです。先輩諸兄が築き上げてくれたMAK・JCを後世に繋げていくために、メンバー各々が成長し、拡大をすることでMAK・JCが存続していきます。そしてその時代に見合ったJCとしての在り方を認識し、率先して運動を展開していきましょう。

●スローガンに抱く想い

「駑馬十駕～未来は僕らの手の中～」を今年のスローガンに掲げました。中国の思想家「荀子」に由来する古事成語で、もともとの意味は、「足の速い馬は一日でも千里もの距離を走るが、足の遅い馬でも十日も走り続ければ追いつける」ということで、「ふつうの人でも、努力すれば才能をある人に並ぶことができる」という喩え話です。私自身この言葉を座右の銘としている事もあり、自分自身が努力をし、MAKメンバーや会社の従業員に努力するさま、姿勢を見せることで「努力は嘘をつかない!」「誰にでもできるというところを見せた

い！」、「皆で同じ志のもと、共に切磋琢磨して成長していきたい！」という思いから、このスローガンと致しました。

コロナウィルス蔓延により、生活様式が変わる中、今一度 MAK・JC としてのあり方や置かれている立場を振り返り、1年後、3年後…の自分はどうなっていたいのかをメンバー全員が目標を掲げ、日々全員で成長して行きたいと思っています。それは自分の置かれた立場においても役職は関係なく、委員長であれ、理事長であれ、自分に関わる全ての人の協力があってこそ自分の職務に専念でき、目的が達成できるからです。

今年の MAK・JC には1年間の運動を通じて是非それを体感し、また自分に関わる全ての人のことを心の底から思い、努力を惜しまない人間に成長して頂きたいと思います。

### ●地域を豊かにするまちづくり

まちづくりとは、郷土を愛する心と郷土への関心を溢れさせることであると考えます。MAK 地域には、豊かな自然と新鮮な食彩、史跡など誇れるものが多くありますが、昨今の変異を続けるコロナウィルスにより私たちの生活環境は大きな影響を受けました。その中でも特に影響が大きいのは、地域の方々が交流する機会である催し事が中止になったことで、近隣住民がふれあう機会が減少しているということです。まちを豊かにするには、人と人とのふれあいが必要と考えます。それには「ひと・もの・こと」との出会いをきっかけに喜びを感じられるような場所作りが大切です。持続可能な MAK 地域を作るためには、物質的な物や形として見えるものだけではなく、地域の魅力を再発見し、創造して発信し、郷土愛を育み続けなければなりません。まちを形成しているものは人であり、時代の変化の中でも、私たちがこのまちに郷土愛や関心をもてる場を提供し続けることで、郷土愛が溢れるきっかけになると信じます。そのためには行政や各種団体の方々と構築してきたパートナーシップをより強固なものとする必要不可欠です。驚馬十駕の信念の基、メンバー一人ひとりが目の前にある目標、課題に取り組み、個の力を結集させた MAK・JC が様々な人と手を取り合うことで活動が伝播され、共に活動することで、郷土を愛する人が増え、未来永劫なまちづくりができるかと確信します。

### ●次世代を担う MAK 地域の青少年育成

現在は今までの日常生活と比べて大きな変化がおき、当たり前が当たり前でなくなった時代を迎えています。感染予防対策のために三密の回避、マスクの常時着用などで人との関わり方に距離ができ、他者との繋がりを築きにくい社会になりました。学校生活では、学内活動の変化や学外体験の中止で今までより厳しい制限がかかり、子供達はストレスや不安を抱きながら日々生活をしています。休日の過ごし方も活動範囲の制限で人との繋がりを築きにくい状況により、子供時代に得る情報や体験が以前よりも減少しています。生活環境の変化により、今まで以上に WEB を使った非対面型のコミュニケーションツールが多く使われるようになったと思います。私自身が生まれ育った MAK 地域には豊かな自

然が多くありますが身近にあるために、その素晴らしさに気付くことなく過ごしているのではないのでしょうか。自然の中で行う体験は他者との絆を深める経験、活動から得られる創造力、積極性、協調性、責任感を培い、五感を刺激する良い場になると考えます。いずれ進学や就職で生まれ育ったこの MAK 地域を離れることがあっても、子供時代に体験し得られたものは、自身の成長や故郷に対して誇りをもてる魅力ある経験になります。

そこで、当青年会議所では自然体験を通じて子供達が他者と協力し、一つのモノを作る楽しさや知恵を使い、創造する楽しさを、身をもって味わう事で非対面型のコミュニケーションでは得られない、五感を刺激する青少年事業を MAK 地域で実施します。そうすることで、今の社会情勢であっても、子供達が創造力、積極性、協調性、責任感、自身を表現する能力を身につけて、人と人との繋がりを大切にでき、故郷に対して誇りをもてる魅力ある大人へと成長すると確信しております。

### ●会員の拡大

卒業制度のある青年会議所において、持続可能な組織であり続けるには、常に会員拡大を行っていかねばなりません。しかし、近年では少子高齢化問題と人口構成の変化により、地域を担う人財が減少傾向にあり、全国的に会員減少が大きな問題となっています。逆境の時代において志高き人財を拡大するために、青年会議所の特色を魅力として広く発信する必要があります。青年会議所は、時代に即した事業を構築する中で多くの仲間と出会い、切磋琢磨し、深い絆で結ばれ、共に成長し、相互扶助の精神を養える貴重な組織です。絆は JC 活動の根幹であり、多くの絆は無限の可能性を秘めています。よって志高き人財が集うことは、青年会議所が未来永劫に活動できる団体であることを意味します。

また、MAK 地域で新たな協力者となって頂いた市民サポーターとの事業を構築することで MAK・JC の魅力発信や市民を巻き込んだ事業が可能となり、青年会議所の運動をたくさんの方に体感していただくことが出来ます。MAK・JC の個の力を結集させ、共に一つひとつの課題や問題を解決し、良い事業構築をすることで会員拡大に繋がります。

### ●機会の提供とメンバーの成長

青年会議所には無限の可能性があると信じています。しかしその可能性に気付くにはまず、青年会議所で行う全ての運動に興味を持つことが大事だと考えます。青年会議所には様々な機会の提供があります。まずは自発的に参加をして体験して頂きたいと思います。そこには普段味わえないような、ワクワクする刺激や体験があると私は考えているからです。現状に満足することなく、さらに一步踏み出すことで自身の成長を実感して頂きたいと思います。例会、事業参画はもちろん、出向や諸大会への参加することも自己成長の機会であり、新たな自分発見の道とも言えます。あなた自身の踏み出す一步が、今まで経験したことのない景色や感動、世界の広さを気づかせてくれます。そして振り返った時に自分の発見や進化した自分にも気が付くでしょう。青年会議所の原動力は紛れもなくメンバー一人ひとりであり、

各々成長がなければ組織の成長はありません。まず、メンバー一人ひとりが利他の精神で、MAK地域の未来を担うNEWリーダーとして自ら立ち上がり、明るく豊かな社会を築き上げるためにも率先して行動することで成長することができます。青年会議所には多くの学びや気づきの機会がありますが、何もせずには得ることはできません。それらの機会に積極的に参加して頂き、魅力溢れる人財へと成長し、明るく豊かな社会を築きあげていきましょう！

### ●持続可能で堅確かつ強固な組織運営

堅確な組織運営し、MAK・JCとしての運動を円滑に行っていく上で、組織の基盤となって支える事務局の担いは重要です。事務局が組織として当たり前のことを当たり前に行ってくれているから我々は安心して安定して活動に取り組めるのです。メンバーの下支えとなる委員会だからこそ、MAK・JCの運動をより一層活発にしていくためには事務局が主体となってメンバーを巻き込むような行動を示していく必要があると私は思います。例えば例会や事業の準備活動や開催結果等々を成果物として一目でわかるような工夫をし、その成果物をメンバー一人ひとりが目で見ることによって達成感に繋がられるような取り組みを取り入れる等、メンバーのモチベーションを向上させ、メンバー皆が積極的に取り組んでいかれるような取り組みを果敢に取り入れていって欲しいと思います。

またMAK・JCの事業活動や会員メンバーの紹介などSNSを通じて外部に発信をし、我々の存在価値や取り組みをMAK地域から全国に、日本から世界へと発信をすることでMAK・JCに興味を持って頂き、認知度を上げ、我々の事業に参画して頂けるよう発信していく必要があります。その取り組みが必ず組織全体の運営やメンバーの成長に大きな相乗効果をもたらすことに繋がると確信します。

### ●結びに

私はMAK・JCに入会して6年が経ちます。その中で様々な出会いがあり、多種多様な人財がいました。自分の夢を真剣に語り合い、地域の住民に自分たちが考える理想の姿を示し、実現するためにMAK・JCの仲間、各諸団体との連携を図ることでMAK地域をより良い環境にできると考えます。

私は小学校から大学まで野球に打ち込んできました。そこまで打ち込めた理由は初めてホームランを打った時の言葉にならない感動と興奮が忘れられなかったからです。ボールにバット当てることから始まり、努力をし、日々の練習を積み重ねていくことで、得られた感動です。その感動を得るためには苦勞することも強制的に努力しなくてはならないこともあるでしょう。ですが人生も一度きりであるならそれを受け入れ、楽しみながら、取り組むことで人生は大きく変わると考えます。

JC活動も同じで、日々何か人から頼まれることや、何かを選択しなければならない時、仕事やプライベートで忙しい時もあります。そんな人生における色々な苦がありますが、その時、その瞬間は一度きりです。一步を踏み出してみることによって、必ず自分にとっての「一生の思い出」と「一生の仲間との出会い」に繋がり、それが自分の糧になります。人の

一生と同じように JC 活動にも始まりがあれば終わりがあります。皆さんは 2023 年の終わりを一人ひとりがどのように終えるのでしょうか。一度しかないこの一年で「最高の仲間」と「最高の思い出」を創るために、共に挑戦してきましょう。そして、コロナ禍という曇り空が広がる世の中に希望という光を届けるために、大切な人が住まうこのまちに何ができるかを一人ひとりが想いを持って活動していきましょう。必ずその想いある姿が、このまちを「感謝」と「感動」で溢れさせ、心地良さを感じるまちの実現に繋がると確信します。未来は僕らの手の中に！！

### 【基本方針】

- ・ 創立 55 周年に向けた人材の開発
- ・ 創立 55 周年に向けた人材の拡大
- ・ 次世代を担う MAK 地域の New Generation 発掘
- ・ 会員全体への堅確な情報共有
- ・ SDGs×各諸団体との連携による事業構築
- ・ 持続可能で強固な組織運営

### 【運営方針】

- ・ メンバー全員による会員拡大の実施
- ・ 拡大実施情報の共有
- ・ 拡大マネジメントの実施
- ・ 拡大ツールの企画、開発
- ・ 55 周年に向けた全員開発
- ・ 55 周年に向けた人格形成の実施
- ・ 七夕送り火の復活
- ・ 2023 年度 MAK・JC 運動方針、事業説明会の実施
- ・ 2023 年度 MAK・JC 運動結果、検証、報告会の実施
- ・ 新年会の実施
- ・ 理事会、総会議事録の作成
- ・ 総会、例会、理事会の設営
- ・ 総会、例会、理事会の全員出席を目指した運営
- ・ 会員全員との堅確な情報共有の確立
- ・ HP、SNS の更新管理と発信
- ・ MAK・JC の認知度 UP に向けた広報戦略
- ・ 公益会計基準に則った財務管理